

# 中縄 パイナップル プロジェクト



## 東村

Higashi Village

### ”花と水とパイナップルの村”が仕掛ける ユニークな地域ブランド「やんばるの東」

日本一のパイナップルで東村をもっと元気に！

本島北部の東海岸沿いに位置する東村は、村の約七割が森林に囲まれ、絶滅の危機が心配されている貴重な動植物が生息する世界に誇れる自然環境を有しています。この豊かな自然が育んだ地域資源「パイナップル」を活用し、東村独自のプロジェクト「やんばるの東」が進められています。

「東村には、年間約二十五万人の観光客が訪れています。しかし、その観光客のほとんどが東村がパイナップルの生産日本一であることを知りませんでした。東村の特産品であるパイナップルの認知度を上げ、他の産地との差別化を図るためにも、東村ブランドのイメージを構築することが早急な課題でした」と話す東村商工会経営指導員の比嘉正次さん。



東村商工会 経営指導員 比嘉正次さん



パイナップルをはじめ、マンゴーやたんかんなどを活用した東村ブランド商品

商工会は、沖縄県物産公社の青木元さんのアドバイスの下「地域資源∞全国展開プロジェクト」に採択されたプロジェクトを平成十九年にスタート。地域の資源である「パイナップル」を使った特産品開発を観光と連携させるため、商工会、村、パイナップル農家や工業者などのメンバーで特産品開発委員会を発足しました。毎月の定例会ではお互いのアイデアや試作品を持ち寄り、パイナップルを原材料としたさまざまな商品開発を行いました。



「両親が丹誠込めて育てたパイナップルを活用したかった」と語る城間達子さんは、パイナップルを使ったタコライスソースやドレッシングを開発。ジャムの開発を担当した沖縄ポッカ品質管理室の大城清乃さんは「砂糖ではなくトレハロースとオリゴ糖を使ったので、配分が難しく失敗の連続でした」と当時を振り返ります。「試作品を作っては何度も試食。商品が我が子のようにかわいい」と話すのは、マンゴーやパイナップルのゼリー、たんかんのジャムを作ったマンゴー園の又吉桂子さん。パイナップルに蜂蜜とヒハツ（チガコシヨウ）を加えて煮詰めた果実感たっぷりの「ゴンフィチユール（ジャム）」は、「家族に安心安全なものを食べさせたい」という主婦の思いを商品作りに生かし、農家の大嶺絹代さんが開発しました。

パイナップルの実を使った食品だけでなく、本来なら捨てるはずの葉や皮も再利用。何時間もかけて細かく漬して水に溶かし、和紙の要領で漉きます。葉を使うと緑色、皮は黄色く、使う部分によって色が変わり、しっかりと手触りのパイナップル紙が完成しました。

地域のみならず支える  
「やんばるの東」ブランド

「やんばるの東」ブランドは、パイナップルをイメージしたシンボルマークが特徴です。大地の「茶」、太陽の「オレンジ」、やんばるの木々や自然の「緑」、そして東への方位と村の発展のために一致団結する決意を「赤」で表現し、東村のさまざまな提供価値の集合体を意味しています。このシンボルマークは「やんばるの東」ブランドを保証するマークとして、各商品のラベルやパッケージに採用しています。「やんばるの東」ブランドは、「JAPANブランド育成支援事業」の補助金を活用し、市場調査を踏まえた商品開発を進め、最終的には二十五品目まで増やす



やんばるの東  
Okinawa Higashi Village  
パイナップルをモチーフにした  
シンボルマーク

予定です。今後は、東京都庁や銀座わしたショップでのPR展、香港でのパイナップルを使ったドリンクのテストマーケティングなどプロモーション活動を積極的に進め、アジアをはじめ世界を視野に入れた全国展開を目指します。

手つかずの大自然や農業を  
最大の観光資源に！

東村観光推進協議会では、マンゴロープが生い茂る慶佐次川でのカーン体験や福地ダムでの雄大な景色を楽しむやんばるの森トレッキングなどの「エコツーリズム」をはじめ、沖縄の伝統的漁法を体験する「ブルーツーリズム」、地元農家で農業体験をする「グリーンツーリズム」など、豊かな自然を生かした体験・滞在型の観光プログラムで観光客を誘致し、若い世代の雇用促進も狙います。

エコツーリズム協会会長の比嘉茂正さんは、「私たちは七つの事業所で三十人のツアーガイドがあり、慶佐次川のカヌー体験では年間十万人、グリーンツーリズムでは年間五千人を集客。体験や民泊の受け入れ先は村内の農家六十二名にお願いしているので、六つの字が特色を出しながら、地元の良いものを紹介できれば」と意欲的です。

グリーンツーリズム受け入れ農家でもある大嶺さんは、「修学旅行の子供たちが東村を第二のふるさとだと思ってくれたらうれしい。農業体験の中で、いちゃりばちよーの精神も伝えたい」と瞳を輝かせます。

村の一番の産業である農業を中心に地域が密につながり、年齢や職種に関係なく仲良く地域ブランドを支える東村。村を愛し、誇りに思う気持ち根底にありました。



有限会社やんばる自然塾 予約手配課長 當山 一さん  
エコツーリズム協会会長 比嘉 茂正さん

「東村に学ぶ！」  
元気プロジェクトの開発ヒント  
・パイナップル「の東」をアジアや世界にもアピール  
・商工会や役場、地域が密に協力し、一体感を持って楽しく活動  
・専門家によるデザイン戦略を導入し、質の高いパッケージやシンボルマークが実現

東村商工会  
☎0980-43-2931  
URL <http://www.higasi.or.jp>

## 編集後記

「笑っていいとも」観覧に行ってきました。タモリさんにあわせての「そうだね」や手拍子も放送直前に観覧者全員で練習したおかげで、本番もばっちりです！生放送の緊張感のあるスタジオで、芸能人を間近で見る事が出来て、とてもいい経験になりました。(momo)

先月行われた沖縄全戦没者追悼式で広報カメラ担当として動き回った私。あまりの暑さに耐えきれず、沖縄版麦わら帽子ともいうクハ傘を現地で購入して被っていたところ、不審者と思われたのか、あちこちで警備中のSPに何度も職質されました(涙)(tako)



アンケート  
「美ら島沖縄」のご感想をお聞かせください。  
パソコンはこちら  
<http://www.pref.okinawa.jp/churahome/>

沖縄県広報誌  
平成21年8月1日発行第33巻8号通巻407号  
**美ら島沖縄**

企画・編集・発行 沖縄県知事公室広報課  
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2  
TEL: 098-866-2020  
●表紙 写真・島袋常貴 /  
本島一の大自然を最大の観光  
資源にした「エコツーリズム」(東村)